

令和3年(2021年)版

Yomo Yomo

～10代のあなたに～

恋するところ

『みつきの雪』

眞島めいり／作 講談社 2020年発行

小学5年生の時、山村留^{さんそんりゅうがくせい}学生としてやってきた行人は満希^{ゆきと みつき}のたったひとりのクラスメイトとなった。でも所詮は「お客さん^{しよせん}」、二年したら都会に帰るんでしょ、という満希の予測に反し、行人は村に残り続けた。同じ時間を過ごし、お互いを知り、そばにいるのが当たり前になったふたり。明日は高校卒業、これからは別々の道を歩む。



『お絵かき禁止の国』

長谷川まりる／著 講談社 2019年発行

漫画を描くことが好きな中学3年生のハルは、同じクラスのアキラが好き。でも、アキラは女の子。

普通ってなに？女の子が女の子に恋しちゃいけない？こんな気持ち、誰にも理解されないと考えていたけど、母も弟も理解してくれたのに驚いた。ハルの恋の行方は？

『君は月夜に光り輝く』

佐野徹夜／著 KADOKAWA 2017年発行

月の光に照らされると体が淡く光る「発光病」。病院から外に出られない少女の「死ぬまでにしたいこと」を僕がかわりにすることになる。遊園地、バンジージャンプ…僕の報告に彼女は大笑いし、僕のなげやりだった毎日が変わり始めた。「好き」という気持ちに気づいた僕は、彼女のいない世界をどう生きていけばいいのだろう。



「好き」という気持ちに気がついて

『ぼくの嘘』

藤野恵美／著 講談社 2012年発行

ぼくは、授業中も森さんから目が離せない。彼女は親友の恋人だ。でも、森さんを好きになることをやめられない。こんなぼくのことを学校一の美少女、結城さんに気づかれてしまった。しかも口止めとして、結城さんの偽の彼氏を演じることに。森さんに未練いっぱいぼくに、恋愛はタイミングだと彼女は教えてくれた。

前作『わたしの恋人』も読んでみて。



『天使は奇跡を希う』

七月隆文／著 文藝春秋 2016年発行

愛媛県今治市の高校に通う良史^{いまばりし}のクラスに、転校生の星月優花^{よしふみ}がやってきた。彼女の背中には本物の‘羽’があるのだが、どうやら良史以外のクラスメイトには見えていないらしい。良史は、「天国に戻りたい」という優花をいつの間にか手伝うことに。でも、それは彼女の命をかけた嘘だった。



『紫の結び〔源氏物語〕』全三巻

紫式部／原作 荻原規子／訳 理論社 2013年発行

平安時代の女房（侍女）たちがこぞって読んだ流行小説『源氏物語』。光るように美しい源氏の君と彼を取り巻く女性たちの物語ですね。読んでみたいけれどちょっと難しい…という人もいるのでは？「それではもったいない！」と、人気作家・荻原規子が現代語に訳しました。テンポ良い物語はこびに、源氏の君が生き生きと動き出します。



編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館

問い合わせ先：箕面市立中央図書館

TEL 072-722-4580 FAX 072-724-9697

発行日：令和3年(2021年)1月



箕面市立図書館
ホームページ

☆YomoYomoは箕面市立図書館の
ホームページからも確認できます。

箕面市立図書館 おすすめの本

検索

え!?こんな本、あったの!

本棚のすみっこ

こんなに面白い本が実は隠れています

『グレタのねがい 地球をまもり未来に生きる』

ヴァレンティナ・キャメリニ/著 杉田七重/訳 西村書店 2020年発行

ある日、スウェーデンに住む15歳のグレタは、地球を救うためにたったひとりで立ちあがった。地球温暖化の危機を訴え、学校ストライキを始めたのだ。それから、わずか4か月後。グレタは国際連合の会議で、各国の代表者たちの前でスピーチを行っていた。彼女はこう言っている。「希望も必要ですが、それ以上に、行動が必要なのです」と。



『今の空から天気を予想できる本』

武田康男/著 緑書房 2019年発行

これからの天気が気になったら、あなたはどうしますか。PCやスマホの天気予報アプリや雨雲レーダーを見るのかな。昔の人たちは雲の色や形や動き、空の色、風の様子で天気の行方を予想していたんだよ。さあ、あなたも空を見上げてみよう。今見えているのはどんな雲?たくさんの写真の中から見つけてみよう!

『風のことば 空のことば 語りかける辞典』

長田弘/詩 いせひでこ/絵 講談社 2020年発行

これは辞典です。まずは、目次を見て気になる言葉を引いてみてください。開いたページであなたは、語りかけてくる言葉に出会うでしょう。これは、子どもたちが書いた詩への返事なのです。この本を読んでいる一人ひとりに向けたメッセージにも思えます。言葉のイメージが広がり、まるで詩集のような辞典です。



『ぼくを探しに』

シルヴァスタイン/作 倉橋由美子/訳 講談社 1979年発行

なにか足りない気がしていたぼくは、ぼくのかげらを探しに出かけた。雨の中を、雪の中を。やっと見つけたと思ったら、ちょっと違うものばかり。とうとう見つけた、ぴったりのかけら。でも、うまく歌えなくなった。今までできていたことが、何もできなくなった。ぼくはどうする? ありのままの自分でいい、と思える絵本です。

ぼくを探しに
シルヴァスタイン作
倉橋由美子訳



『アレにもコレにも! モノのなまえ事典』

杉村喜光/文 大崎メグミ/絵 ポプラ社 2019年発行

どんなモノにもすべて名前がついている。お刺身の下に引かれている紙にも、プチプチって呼んでいるアレにも、ペットボトルの底のデコボコした部分にも。クイズ形式で、由来についても書いてあるので、この本を読めばモノの名前について詳しくなれる。正式名称を知っていれば、カッコいい!



『走れ! ダンボルギーニ!!』

今野英樹/著 方丈社 2019年発行

こんぼうざい 梱包材の会社が、ダンボールを憧れのスーパーカー・ランボルギーニに変身させました。その名も「ダンボルギーニ」。東日本大震災から復興した宮城県女川町のシンボルとして町の施設に展示され、大評判!自らを「おだづもっこ(お調子者)」という社長の今野さん率いる15人のスタッフが作り出す作品の数々が、人々を笑顔にしています。

